

参加型展示コーナーの開設について

こども歴史文化館は低学年の児童の利用も多いことから、子ども達が「楽しさ」や「おどろき」を感じることでできる参加型展示を取り入れ、主体的な学びへつなげる工夫を行っている。今年は、杉田玄白の『解体新書』刊行から250年目にあたることを契機として、参加型展示を新たに開設する。

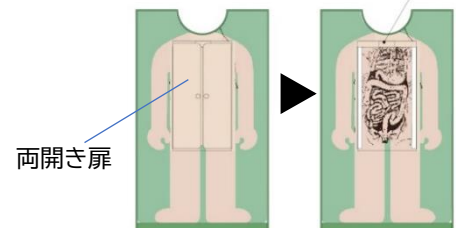
1 主な内容

西洋医学書の翻訳書である『解体新書』の「人体解剖図」と、東洋医学を基に、従来より日本で信じられてきた「五臓六腑」図の2種類の顔出しパネルを設け、両者の違いを分かりやすく伝えながら、顔を出して写真を撮るなど、楽しく学べるコーナーとする。また、『解体新書』の顔出しパネルは、解剖をイメージし、扉を開くと同書に掲載された人体解剖図が現れる仕組みとなっている。

2つの顔出しパネルの背面パネルでは、東洋と西洋の医学で大きく異なっていた、「心のありか」の考え方についても紹介し、『解体新書』の登場で、日本の医学における人体の捉え方がどう変わったかを伝える。

2 設置場所

こども歴史文化館 2階 先人のひろば



両開き扉

※「人体解剖図」の顔出しパネルについて
解剖をイメージし、扉を開けると
「人体解剖図」が現れる仕組み

3 一般公開日

令和7年4月1日(火)

【新コーナーイメージ図】

